

「内外温泉文化の違いを理解する」-外国人の入浴習慣と温泉イメージ-



グループ名 Team いい You だな 

コース・専攻：国際交流・協力コース

メンバー小島賢司 成田実 中西康晴 矢倉やよひ 植條睦美 宮本正芳 福島守男

【テーマ選定】

『世界の国からこんにちは！』時代の到来である。観光地、街中はじめ、いたるところで外国人を目にする機会が増えてきた。残念なことに、「外国人はマナーが悪い」とのニュースを耳にすることもある。『Team いい You だな 』では、身近なテーマ『入浴習慣』『温泉文化』に絞り、諸外国と日本の違いを調べ、理解する事により相互理解が出来ると考えた。そこで、有馬温泉、城崎温泉で訪日外国人に対してアンケート調査、インタビューを実施し生の声を聴くことにした。言葉の障壁はあるものの、身近な共通テーマを通じて世界中の人たちとのコミュニケーションに挑戦することは、『国際交流』の一步と考えられる。更に、観光庁等の報告書とアンケート分析結果を比較検証することとした。また、アンケート調査と並行して、世界各国(中国、台湾、アメリカ、ドイツ、ハンガリー、イタリア、ニュージーランド、ペルー)の温泉文化・歴史と入浴事情も研究することとした。

【アンケート調査活動】

- 500 人の You から回答を得ることを目標とした⇒結果 50 ヶ国 517 人と交流ができた。
- 有馬温泉  6 日間、城崎温泉  3泊 4 日・・・延べ 10 日間 45 時間実施した



【まとめ】

現在の日本の温泉文化は、本来の自然の恵みである温泉文化と、長い時間を経て大衆によって醸成された銭湯文化が融合し世界に類を見ない近代日本の温泉文化が形成されたと考えられる。この様に、日本の温泉文化は、You にとって魅力と驚きを併せ持つ独自の文化体験である。入浴ルールや裸での入浴といった文化的特性は、初めは抵抗感を生むこともあるものの、理解が進むにつれて“日本らしさ”の象徴として肯定的に受容されつつある。今後、国際化と共存しながら日本社会の文化的多様性を実現するためには、温泉文化についての情報提供の改善や多様な価値観の受容が不可欠である。温泉文化は、日本と世界をつなぐ重要な文化資源として、今後も発展が期待される。

温泉や入浴といった身近なテーマで、文化や習慣の違う50ヶ国-517人の人たちと交流し、実際に同じ体験をすることで、難しい理屈なしで相互理解ができることを実感した。いつの日か、世界の首脳が温泉に入りながら平和を語り合うサミットが開かれることを夢見るのである。

